

建築学科（令和3年度前期）

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A211001 建築概論	<p>達成目標 建築の歴史的な流れを理解できる。 建築様式の違いを理解できる。 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。</p> <p>教育効果 建築史学は建築学の創立以来、歴史上のあらゆる様式を理解する上で必須の学問とされています。そこでまず、そうした学問的背景と現代社会における役割を理解することが大切となります。</p>	<p>時間短縮での授業となったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。 また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.5、4.3、4.4、4.4、4.5) 回収率 94.3% 科目 GPA3.4 授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていました。今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
A211004 建築の歴史	<p>達成目標 建築の歴史的な流れを理解できる。 建築様式の違いを理解できる。 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。</p> <p>教育効果 建築史学は建築学の創立以来、歴史上のあらゆる様式を理解する上で必須の学問とされています。そこでまず、そうした学問的背景と現代社会における役割を理解することが大切となります。</p>	<p>時間短縮での授業となったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。 また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築での歴史とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.6、4.3、4.4、4.4、4.5) 回収率 91.2% 科目 GPA3.4 授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていました。今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
A211032 卒業研究 I	<p>達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>時間短縮での授業となったため、個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価 4.8 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 25.0% 科目 GPA3.8 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
GA21132 建築時事	<p>達成目標 1. 日本国内の建築時事はもちろんのこと、海外の建築の動向も含め、近年に話題となっている建築や都市関連の事象における知識を広げること。 2. プレゼンテーションでのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと。</p> <p>教育効果 情報収集の能力向上を高め、また情報の処理能力を磨くことが求められます。さらに、単に情報を持ち得るだけでなく、その情報を活用し、人に伝える手法を向上させるものとなります。</p>	<p>時間短縮での授業となったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価 4.93 (5.0、4.7、5.0、5.0、5.0) 回収率 75.0% 科目 GPA5.0 特に問題はないようであった。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>

<p>GA21105 建築学ゼミナールA</p>	<p>研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p>	<p>時間短縮での授業となったため、学生の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 75.0% 科目 GPA5.0 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
<p>GA21120 建築学特別研究C</p>	<p>研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p>	<p>時間短縮での授業となったため、学生の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 75.0% 科目 GPA5.0 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
<p>A211007 環境デザイン I</p>	<p>快適な居住間をつくるための方法やポイントについて理解できる。熱の伝わりについて基礎的な事柄を理解できる。光環境の基礎的な事柄を理解できる。 快適で過ごしやすく、省エネを実現できる建築が求められている。これを実現するためには、光、熱、風、音などヒトが感覚的に捉えている要素を量的に把握して、快適性や環境の改善に役立てる必要がある。この講義では建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など環境形成の基礎について学習する。</p>	<p>建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など、パワーポイントや部分的に動画を用いるなどわかりやすい説明を心がけた。 照度計を用いた、照度計測の体験なども行った。 計算問題などは、回答時間を確保するとともに、丁寧な解説を行った。</p>	<p>授業評価 4.34 (4.4、4.2、4.3、4.4、4.4) 回収率 75.3% 科目 GPA2.68 省エネに関する知識、計算は、実務でも求められることから、多くの学生の理解が得られるよう工夫してゆきたい。</p>
<p>A211024 木造設計演習 I</p>	<p>木造建築の設計方法の基礎を理解できる。 軸組みの考え方を理解することができる。 部材の役割について理解することができる。 木造住宅に用いられる仕口模型の制作を行い、仕組みや部材名称、部材寸法等を立体的、体感的に理解します。さらに木構造における木組み、納まりなどについて講述し、各図面のトレースを行いながら理解を深めます。</p>	<p>木造の軸組を作成する課題に取り組んだ。 モデリングスタジオにて、木組みを制作するものであり、難しい部分、手間のかかる部分もあるが、積極的に取り組む様子が見受けられた。 授業時間が短いため、時間外で行ってもらった作業もあったが、ほとんどの学生が完成に至ることができた。</p>	<p>授業評価 4.60 (4.6、4.6、4.6、4.6、4.6) 回収率 45.5% 科目 GPA3.82 進度に個人差があることから、フォローをしながら、丁寧な指導を心がけてゆきたい。</p>
<p>A211034 卒業研究 I</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>学生それぞれの興味や取り組みたい事柄をプレゼンしてもらいながら、卒業研究のテーマを定めていった。設定した研究や課題のテーマに関する資料収集、調査、制作などを行った。 研究室の活動として、岡崎市と連携した課題にも全員で取り組むことができた。</p>	<p>授業評価 4.75 (5.0、4.8、4.8、4.5、4.8) 回収率 57.1% 科目 GPA3.14 学生個々での進捗や取り組み状況に差が生じることから、それぞれの状況に応じてしっかりと取り組みができるよう配慮したい。</p>

<p>U211010 インターンシップ</p>	<p>社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。</p>	<p>事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。 事前学習では、ビジネスマナー、エントリーシートの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。 事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。 企業の方針により、急遽中止となる学生もあり、その場合には別課題への取組みに切り替えた。</p>	<p>授業評価 4.53 (4.7、4.4、4.5、4.6、4.5) 回収率41.3% 多くの受講生それぞれと面談を進めてゆくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。 有意義な時間となるよう工夫してゆきたい。</p>
<p>GA21103 建築環境論</p>	<p>省エネや環境負荷低減に配慮した建築や住まいの設計に求められる理論について講述し、これを理解するとともに、ディスカッションや演習を通して実践力を高めることを目的とします。 環境に配慮した建築を設計する上で求められる知識を習得し、環境・エネルギーに配慮した建築の提案ができる。</p>	<p>省エネや環境負荷低減に配慮した建築について、各回で異なる小テーマについて調べてもらい、発表をするという課題を重ねながら、積み上げたものを最終提案に結びつけた。 学生それぞれが、対象地域や建築用途を定め、省エネ建築の提案を行うことができた。</p>	<p>授業評価 4.73 (4.7、4.3、4.7、5.0、5.0) 回収率100% 科目 GPA4.00 各回での調べ学習に取り組みやすいよう、テンポのよい展開を工夫してゆきたい。</p>
<p>GA21102 実務研究</p>	<p>理論的研究ないし知識獲得の成果を社会の要求に対応させること、あるいは実務現場の体験を通して学修成果の会得を確実にすることを目的とします。 実務経験を通して、学修成果を社会の現実に関連させる方法を確実に把握することができる。</p>	<p>1名が受講した。企業での実務現場の体験（インターンシップ）に取り組むため、事前学習、企業選定などを行った。 企業より、感染対策のためインターンシップ実施しないこととなり、参加することができなかった。 代替の課題に取り組むことができた。</p>	<p>大学院らしい、実務現場の体験（インターンシップ）のあり方などを検討してゆきたい。</p>
<p>GA21122 建築学特別研究C</p>	<p>建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p>	<p>1名が受講している。 前年に引き続き、テーマに基づき調査研究を行った。 資料収集や分析などの作業を丹念に行うことができた。</p>	<p>授業評価 5.00 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率100% 科目 GPA4.00 学生の作業ペースに配慮しながら、研究内容をより深められるようにすすめていきたい。</p>
<p>L211018 心理学</p>	<p>心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 幅広い心理学の領域の中から、日常生活に関係するテーマを多く取り上げながら、心理学的なものを見方を学ぶことを目的としている。</p>	<p>例年学生にあわせるよう心がけ同じテーマであっても取り上げるものをその年度の学生にあわせて変えるよう工夫した。 概ね多くの学生にあった内容になったのではないかと感じている。ただ、思考を問う問題では点を取れる学生が少なかったのが気にかかる。</p>	<p>授業評価平均 4.4 回収率76% 図版や動画を多く取り入れ資料を作ってきたが、各自でダウンロードする形をもっと取り入れても良いかなと思った。 日常生活の多くの部分に心理学が応用されていることをもう少し多く取り入れるよう改善していきたい。</p>

<p>A211031 卒業研究 I</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定。テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていく。そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となる。</p>	<p>なかなか、テーマが決まらず苦労した。学生本人に最終目標がはっきりせず、漠然としたテーマであった。 「三河地震について調べたい」からはじまり、当時の建築の様子や倒壊した家屋の様子の情報収集から始めた。ただ、学生自身がそこから何を感じ取り、それをどのようなまとめとしていきたいのかにまでは行き着かなかった。後期でははっきりと「したいこと」をまとめ、報告できるよう指導していきたい。</p>	<p>評価平均— 回収率0% 本人の思いを引き出す努力をしたが、「考える」と言うことができていなかったと思う。本人の目的意識がはっきりせず、漠然と時を過ごす感じがした。もう少し本人に寄り添ったテーマに強引にでも持って行けるよう話し合うことが必要であったかもしれない。「やりたい」を引き出せなかったことを反省している。</p>
<p>Q213001 教育実習 I</p>	<p>実習校で、所定の教職実習を行うことができる。教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。</p>	<p>教育実習の心得の中で「生徒と向き合う」ことを中心に話した。 あいにくのコロナで実習期間が後期になってしまう学生がほとんどとなってしまったが、しっかり板書、パワポの準備ができ、少しは不安が解消できるのではないかと感じた。</p>	<p>授業評価平均 4.1 回収率 75% 実習校の厚意、教職の楽しさを実感してくれればと願う。</p>
<p>Q213002 教育実習 II</p>	<p>教育職の自覚を深め教員として自立できる。 教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。</p>	<p>指導書の活用、生徒の見方などについてアドバイスした。</p>	<p>授業評価平均— 回収率0% 教室内や実習室の動線についてももう少し説明すれば良かったと反省する。次年度に生かしたい。</p>
<p>Q213003 事前・事後指導</p>	<p>教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。 教育実習をスムーズにできるようにすること。</p>	<p>指導案の形式や表記方法が学校ごとに違うこと、指導書の活用などについて説明した。 パワポの効果的な使用についてもアドバイスした。</p>	<p>授業評価平均 4.4 回収率 100% 全員、個性的であり、自信を持って事に当たってくれている。真摯な態度が受け入れ校にいい印象を与えるので言葉遣いや態度について少しだけアドバイスをした。キャリアデザインでも扱っている内容と重複するのでしっかりとおさえておきたい。</p>
<p>A211037 卒業研究 I</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。そのために、所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。 遠隔授業では対面授業までの間に、決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。</p>	<p>授業評価 5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 28.6% 科目 GPA4.0 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>

<p>A211029 商業施設計画</p>	<p>商店街・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、空間構築と商業施設計画への応用が出来るようになる。 社会環境の変化と生活の多様化に伴う商店街や大型店舗の計画や業種計画への関連性を学び、これからの地域計画・街づくりにおける商業施設計画の進め方について理解を図ることを本講義の目的とします。</p>	<p>発表する方法で、コメントを出しコミュニケーションしていく事で、課題の研究内容が理解し易い内容になって行った。 時間的な制約がある中で要約した発表に繋がった授業であった。</p>	<p>授業評価 4.64(4.8、4.6、4.6、4.6、4.6) 回収率18.5% 科目 GPA1.59 達成目標に対する授業評価を高めるには、個人指導による対応など考えていきたい。</p>
<p>A211022 建築設計演習Ⅲ</p>	<p>立地環境や建物の構造を理解して、設計図面（配置図、平面図、立面図、断面図）作成できることです。 建築のイメージを表現できる手法と、伝えることを習得することを目標とします。 中規模施設を設計する構想力をつけることを目的とします。 また、建築物の外部(エクステリア)・内部(インテリア)の生活シーンをイメージし、さらに周辺環境とのかかわりを含めて検討するなどの空間設計力、構想した建築空間をより分かりやすく相手に伝えるための図面表現力も養います。</p>	<p>授業の流れは、毎回設計の成果を対面でプレゼンして、問題点を議論し設計を進めていく。ここの学生のデザインに応じ計画、技術、環境などにそった設計指導の授業であった。</p>	<p>授業評価 4.354(4.6、4.1、4.3、4.3、4.5) 回収率50.0% 科目 GPA2.54 達成目標に対する授業評価を高めるには、学生の個性に応じた指導の対応など考えていきたい。</p>
<p>A211014 建築設計演習Ⅰ</p>	<p>建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。「建築」・「空間」・「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします</p>	<p>授業の流れは、毎回設計の成果を対面でプレゼンして、問題点を議論し設計を進めていく。 ここの学生のデザインに応じ計画、技術、環境などにそった設計指導の授業であった。</p>	<p>授業評価 4.335(4.5、4.1、4.4、4.5、4.3) 回収率81.1% 科目 GPA2.52 達成目標に対する授業評価を高めるには、学生の個性に応じた指導の対応など考えていきたい。</p>
<p>A211043 インテリアエレメント</p>	<p>インテリアを計画するために必要となる基本事項について理解ができ、かつ、それらの知識を用いて、実際のインテリア空間を評価できる。 インテリアを計画するために必要となる基本的な事項について学習するとともに、人の生活におけるインテリア空間の重要性や計画の方法について学びます。</p>	<p>PPT を中心に事例作品により、建築計画及びデザインの仕組みを解説できた。</p>	<p>授業評価 4.143(4.3、4.0、4.1、4.3、4.0) 回収率38.9% 科目 GPA2.28 達成目標に対する授業評価を高めるには、PPTによる授業とスケッチなどデザインをする授業内容も考えていきたい。</p>
<p>A211002 住宅のつくり</p>	<p>住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。 戸建て住宅や集合住宅で用いられる各種の構法や建築的な特性を含めた概略を知り、建築物がどのようにつくられるかを理解することを目的とします。 また、建築に携わる者として自身の考えを他者に伝えるために、建築の工法や構造などの専門用語を身につけることも目的の一つです。本講義では、これらの理解と修得をもとに住宅建築で用いられる建築構法の在り方について考える基礎を養います。</p>	<p>教科書『3D図解による建築構法 第二版』、松村秀一ら、市ヶ谷出版社に基づき各工法の説明と専門用語の説明を行った。 ビデオなども使いわかりやすく工夫をした。 対面であったが、1時間授業では説明しきれない内容もあった。 不足内容での課題提出などを考えたが、ボリュームが多いとの意見もいただいた。 また、用語の説明についてはボリュームが多く、覚えられないとの意見も途中あったが、PPTのプリントでの復習を進めたり、補習を行ったりした。</p>	<p>授業評価 4.171 (4.4、4.0、4.2、4.1、4.2) 回収率79.4% 科目 GPA3.08 各課題への取組意欲が高かったため、授業では詳細な内容を説明するようにしたが、理解できる学生とできない学生の差ができてしまった。その為、定期試験をできない学生に合わせた結果、GPAが高くなってしまった。 来年度はできない学生のフォローができるような授業に変更をし、定期試験のレベルは上げて最終目標のレベルを向上したいと思う。</p>

<p>A211013 建築材料</p>	<p>建築物の材料に要求される事柄を整理する。 建築材料の評価法について理解する。 建築材料の使い方について理解する。 建築材料に求められる特性を理解するとともに、各種建築材料の製造法と特性について学びます。 授業で取り上げる、無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、特に良い建築を設計するために、正しく建築材料の特性の理解することが必要となります。</p>	<p>各材料の特性を教科書に基づき説明しながら進めた。 建築とのかかわりをもとに話を進めたが、実例の話を増やすなどして身近に感じていただく工夫が不足したように感じた。 建築作品と材料の関係の授業内容を増やしていきたいと考えてる。 木材や石材のサンプルはあるが、金属・接着材・塗料など、実物材料の確認ができるような準備を来年度以降進めていきたいと思う。</p>	<p>授業評価 4.349 (4.3、4.3、4.4、4.4、4.4) 回収率 75.0% 科目 GPA3.25 意欲的な学生が多く、定期試験や課題のレベルが低く、GPAが高かったが、学生からは理解度が高かったと評価を受けた。</p>
<p>A211023 建築設備</p>	<p>建築設備の構成について基本的な事柄を理解できる。 電気設備、給排水衛生設備などの専門用語を理解することができる。 設備計画を行う上でのポイントを理解できる。 本講義では、空調、給排水、防災、電気の各設備について講述し、演習課題を通じてより実践的な技術を習得します。</p>	<p>年度も現場見学などの実物を確認する機会がなく残念だった。 空調設備などの授業内容がわかりづらくビデオを使つての説明など工夫をした。 実践的な内容を考え、照明計画など実際のプランを作成する内容も行ったが、時間不足を感じた。 来年度は照明だけでなく設備関係のプレゼン提案を作成するなど実践に役立つ内容を増やしたいと考えている。</p>	<p>本授業評価 4.291 (4.5、4.2、4.3、4.2、4.3) 回収率 54.3% 科目 GPA2.35 実践内容を入れていくには授業時間が 1 時間は不足を感じる。 来年度は実践内容を増やしていきたい。 GPA は程よく山形を示したが、理解度が高い学生の割合が低かったとも言える。 バランスよく対応していきたいと思う。</p>
<p>A211028 住宅生産管理</p>	<p>建築のプロセスにおける管理の理論と実際を知り、計画、設計、施工を中心になされてきた学習の知識ベースを広げること、そして管理の視点への関心を高め、これを建築の計画や生産に取り入れられるようにすることが目標です。 21 世紀の地球環境時代の建築は、つくることのみに重点を置いたこれまでのあり方を見直し、長い期間、有効に活用できるようにする必要があります。そこで、建築生産、住宅産業などについての基礎的知識をふまえ、住宅生産および管理にかかわる社会的環境と産業構造、歴史、関係業界と職能、生産プロセス、管理の領域と内容、ファシリティマネジメント (FM) としての住宅生産および管理などについて理解を深めることとします。</p>	<p>21 世紀の建築を歴史を踏まえて考え、最終的には住宅に絞り、計画・管理について具体的な授業内容とした。 企業での新人授業内容を入れたことからより実践的な内容とした。 本来はこのような授業が増えることが望ましいと考えている。</p>	<p>授業評価 4.92 (5.0、4.8、4.8、5.0、5.0) 回収率 29.4% 科目 GPA2.65 人数も 17 人ほどで少なく、皆さんの理解度への配慮を行いながら調整して授業が進められたことが良かった。 欠席も多く、理解度の差は感じられた。</p>
<p>A211040 卒業研究 I</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>毎授業ごとに発表者とコメントをする学生を決め、ディスカッションができるような授業形態とした。 発表の方法にもこだわり、伝えることの重要性も皆で理解できるようにすすめた。 また、他の方への関心も深め、お互いの情報量を増やせる方法への取組み方法も学んでいただけるように考えた。</p>	<p>授業評価 4.933 (5.0、5.0、5.0、5.0、4.7) 回収率 42.9% 科目 GPA3.00 個人差はあったが、自分の得意分野を理解しながら各自のペースで進められたことは良かった。</p>

L211045 キャリアデザイン I	自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 自分軸を形成することができる。 自己に必要な知識や能力が認識できる。	3年生ということもあり就職活動に対する対策授業の意味合いが強くなってしまったことが反省点となった。 人生における「キャリアデザイン」を考えた上での知識や能力を高める方法ができればよかった。 学生にとっては インターンシップ前の準備もできたことで、授業の欠席者も少なく、授業後の質問や補習の希望もあり、取り組む姿勢の高さを感じた。	授業評価 4.367 (4.5、4.3、4.3、4.4、4.3) 回収率 54.4% 科目 GPA2.86 能力や知識の評価が難しく文章などの評価になってしまったことが残念だった。 グループワークなどを行い気づきのプロセスが学べ、評価できるといいと考えた。
G211002 建築学特別講義	現代社会における建築空間・居住空間に求められる諸課題をもっとも身近である建築＝「住宅」を対象に学び、これからの社会に求められる建築空間・居住空間のあり方について考えられる。 これからの社会は、IT や AI を活用したコミュニケーションの機会が増大し、これまでに培われてきた知識や技術に IoT を加えた新たなモノとのかかわり方をデザインすることが求められます。 こうした新しい社会の到来に向けて、本講義では今ある建築空間・居住空間の来歴と課題を建築学の視点から学びます。	初めてのオンデマンド授業だったが、院 1 年生に対して授業の進め方などの説明が不足し、学生に目的などが理解できているかどうかの確認も難しかった。 ビデオを流すが課題提出が定期試験と同時に提出されるケースが多かった。 過程の評価や理解度確認とそのフィードバック方法を検討する必要があると感じた。	授業評価 4.16 (3.6、4.6、4.6、3.8、4.2) 回収率 83.3% 科目 GPA3.0 授業の目的の伝え方をオンデマンドでどう行うかが課題に感じている。 来年度は初回と最終回は ZOOM 等を使って説明する必要があると考える。
A211003 基礎製図 I	目標 木造住宅の基本的な特性の得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。 教育効果 建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を理解・習得することが目的です。	毎回、課題のはじめにパワーポイントを用い、製図道具の使い方や、建築図面の作図手順など具体的に解説を行い、その後、二つの製図室に分かれて作図を行った。 課題説明に講義室を使用することで集中力が増し、課題への理解度が向上したように感じている。	授業評価 4.6 (4.7、4.5、4.5、4.7、4.5) 回収率 80.7% 科目 GPA3.07 授業評価は高いが、課題が図面のトレースであるため、線の意味や、記号の意味など理解して描いているのか、知識や技術が定着しているのか、注意深く見ていく必要がある。
A211014 建築設計演習 I	目標 建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。 教育効果 「建築」「空間」「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。	教員 4 名により 4 グループに分かれての対面授業。感染回避のため公欠を希望する学生には、Zoom とメールを活用し、エスキースなどの指導を行った。個人の能力や、進捗状況に応じて指導を行ったが、コロナ感染防止対策のため、他学生の作品についても、自分の意見が言えるように促すことができなかった。	授業評価 4.3 (4.5、4.1、4.4、4.5、4.3) 回収率 81.1% 科目 GPA2.52 エスキースにおいて、一方向の指導ではなく、学生同士がディスカッションし、楽しみながら作品のクオリティを高めていく環境づくりをしていきたい。
A211021 建築体感演習	目標 歴史的評価の高い日本建築の様式、構造、材料、構法、スケール、装飾、使われ方、近代・現代の建築デザインなどについて、現地での観察や事前の解説を通じて、今後の建築を考えていく具体的に多様な視点を獲得することを目標とします。 教育効果 日本の伝統的な建築や、近代・現代の建築、建築家の作品について、体験型学習などを通じて、建築への理解を深めることを目的とします。	コロナ感染防止のため、予定していた学外実習は実施できず、書籍と Web により、建築作品の調査を行いレポートにまとめた。 実際の建築に触れ、体感することは学生にとって貴重な経験となるため、とても残念であった。	授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 35.7% 科目 GPA2.57 コロナ感染防止に配慮し、Web、動画、VR 旅行など、新たな体験型学習も検討する必要がある。

<p>A211039 卒業研究 I</p>	<p>目標 ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 教育効果 学生自身が研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養い、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>卒業設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、資料収集、事例調査を行った。 テーマの設定では、他学生の研究について発言する機会をできるだけ設け、自分の意見が言えるように促した。</p>	<p>授業評価 4.7 (4.8、4.5、4.7、4.8、4.8) 回収率 85.7% 科目 GPA3.57 自分の意見を伝えられるようになってきたが、議論には至っていない。学生自らが主体的に考え、学生同士でも積極的にディスカッションできる環境を整えていきたい。</p>
<p>G211002 建築学特別講義</p>	<p>目標 現代社会における建築空間・居住空間に求められる諸課題を、もっとも身近である建築＝「住宅」を対象に学び、これからの社会に求められる建築空間・居住空間のあり方について考えられる。 教育効果 新しい社会の到来へ向けて、建築空間・居住空間の来歴と課題を建築学の視点から学び、新たなモノとのかかわり方をデザインすることを目的とします。</p>	<p>現代の住宅設計をテーマとし、二十世紀の名作住宅の紹介、ライフスタイルにあわせた住まい、空間デザインの発想法について講義を行った。 定期試験のレポートでは全体的に良く書けていて、講義の内容が十分に理解されていると感じた。</p>	<p>授業評価 4.2 (3.6、4.6、4.6、3.8、4.2) 回収率 83.3% 科目 GPA3.0 オンデマンド授業ということで、毎回出題される課題の提出をもって出席としたため、出欠の確認にタイムラグが生じた。 出欠確認の方法を検討する必要がある。</p>
<p>GA21111 建築学ゼミナール A</p>	<p>目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。 教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。</p>	<p>修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、研究計画の作成を行った。 情報収集と分析を行い、テーマを設定することができた。</p>	<p>授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 100.0% 科目 GPA4.0 コミュニケーションをとりながら、日本語能力を高め、ディスカッションできる環境を整えていきたい。</p>
<p>GA21126 建築学特別研究 C</p>	<p>目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。</p>	<p>修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、地域調査、問題提起、コンセプトを整理し、研究報告書の作成を行った。 修士設計の計画地がなかなか設定できず、研究テーマを修正することになった。</p>	<p>授業評価 — 回収率 0.0% 科目 GPA3.0 修士設計において、計画地の設定は、早めに決定するように促していきたい。</p>

GA21133 設計演習C	<p>目標 実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。</p> <p>教育効果 建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各領域の設計テーマについての演習を通じて、設計そのものの行為と設計に必要な知識や技能を獲得・向上させる行為とを有機的に接続しながら、実践的な設計能力の向上を図ることを目的としています。</p>	<p>具体的にリノベーションの物件を設定し、地域調査、未来予測、問題提起から、ビジョンを作り、その施設をどのように活用したら良いのか、リノベーションの提案を行った。</p>	<p>授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 00.0% 科目 GPA3.50 課題の主旨が、正しく理解していなかった学生がいた。日本語が得意でない留学生もいるため、丁寧な説明を心掛けていきたい。</p>
U211010 インターンシップ	<p>目標 社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。</p> <p>教育効果 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。</p>	<p>コロナ禍ではあったが、多くの企業でインターンシップが実施され、学生にとって貴重な体験を得ることができた。しがしながら、一部の学生はインターンシップに参加できず、企業研究などを行い、レポート課題を実施した。第1回マッチング会では、参加企業が例年に比べ少なく、実習期間が10日間ということもあり、インターンシップ先がなかなか決定できなかった。</p>	<p>授業評価 4.5 (4.7、4.4、4.5、4.6、4.5) 回収率 41.4% 科目 GPA2.78 今年度は、履修者が58名で、年々増加している傾向にある。インターンシップ受入企業を十分に確保した上で、実習先を早めに決定していくように促していきたい。</p>
U211014 地域クリエイション ワーク	<p>目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。</p> <p>地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。</p> <p>教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。</p>	<p>藤川こどもの家の子ども達にアイデアスケッチを描いてもらい、それをもとに学生がグループワークにて遊具などの制作を行った。</p> <p>コロナ禍であったため、予定していたワークショップや、学園祭で制作した作品をお披露目し、子ども達に遊んでもらうことはできなかったが、協力してものづくりをする楽しさ、難しさ、計画の重要性について学ぶことができた。</p>	<p>授業評価 4.2 (4.3、3.8、4.2、4.6、4.2) 回収率 64.3% 科目 GPA3.00 授業時間が足りず作品が未完成であった。制作までに時間がかかり過ぎたため、テーマや材料を限定するなどの工夫が必要である。</p>
A211008 建築構造力学	<p>断面の特性や不静定構造物の応力、変形を計算することができる。</p> <p>多種多様な構造物（建築物）の力の流れを理解できる。</p>	<p>対面式の講義を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を毎回行った。UNIPAによる授業資料配信により解説を行い、演習時間を十分に確保することができたが、一人ひとりの学生に対するフォローで不十分な面があった。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.5、4.1、4.3、4.4、4.5) 回収率 79.8% 科目 GPA2.78 学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。</p>
A211020 複合構造	<p>鉄筋コンクリート構造などの材料的複合構造の特徴・特質と部材の設計方法の概略を理解できる。</p> <p>部材の構造計算方法を理解し、計算することができる。</p> <p>複数の構造システムを用いた複合構造の構造設計を理解できる。</p>	<p>対面式の授業を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。UNIAPを用いて授業資料の解説を実施し、学生との質疑応答を対面授業回で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。</p>	<p>授業評価 4.5 (4.5、4.1、4.3、4.4、4.5) 回収率 (57.3%) 科目 GPA2.19 新しいカリキュラムにより本年度よりスタートした科目のため、他の科目の知見をもとに授業運営方法を工夫した結果、期待した効果が得られた。次年度は更なる工夫を継続的に実施して行く。</p>

A211033 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	授業の性格上、個別指導となる。 全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	授業評価は履修者人数の関係上、非公表 実験系の研究テーマにおいて少し遅れが生じた。研究指導方法を再検討する必要がある。
GA21101 設計演習 A	各領域の実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。	構造分野の実践的設計能力の向上を目的として、構造図面の作成を中心に課題を行った。 試験課題を含めた課題の状況を見ると、遠隔授業ではあったが、受講生の設計能力の向上に十分寄与したと言える。	授業評価は履修者人数の関係上、非公表 大学院講義の性格上、専門領域外となる受講生も多いため、個別対応で個々の学生の能力に合わせた指導を行う。
GA21118 構造設計論	構造設計に関する基礎的知識を習得する。 各種構造形式の構造規定を理解できる。 構造計算方法を理解し、身につけることができる。 過去から現在までの技術の変遷を理解できる。	構造設計や各種構造形式の規定に関することなど、様々な知識を積み重ねるだけではなく、授業内での演習課題を実施した。アクティブ・ラーニングの一貫として、反転授業を実施したところ、学生の理解が深まったと考えられる。	授業評価は履修者人数の関係上、非公表 大学院の専門科目となるため、高度かつ専門的な知識の教授となりがちである。学生の理解度を考慮しつつ、授業の難易度を調整して行く必要がある。
GA21106 建築学ゼミナール A	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	授業の性格上、個別指導となる。 全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力を育成するため、後半の授業では学生が説明する形式をとった。	授業評価は履修者人数の関係上、非公表 授業の性格上、毎年テーマは異なるが、全体的な指導方法は今年度の成果を踏まえて学生主体の方法を進めていく形を継続する。
GA21121 建築学特別研究 C	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	
U211007 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現状と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とします。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待されます。	対面授業（60分）のため、課題提出は授業翌日迄としました。 受講生は42名で、1～10回の講義後、11、12回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、13、14回で発表会を実施しました。グループのメンバー構成は教員が指定しました（1グループ4名（一部6名）、各学科の学生が1名は入るようにしました（1グループのみ2学科の学生））。 10グループ中9グループが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できました。 教員が指定したグループでの発表会は難しいのではと考えていましたが、学生からは、「グループワークは大変だったが、普通の講義では話さない人と話す機会を得たのでよかった」との意見などが得られました。学科混成のグループ発表から様々な考え方があつたことを学生は学ぶことができたと考えます。	授業評価 4.087（4.1、4.0、3.9、4.2、4.2） 回収率 71.4% 科目 GPA2.52（F以外2.59） 昨年度と比較し、全体の科目 GPA は高かった。これは、対面授業ができたためであると考えます。授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えます。 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、工夫を行いたいです。

<p>A211010 建築 CAD I</p>	<p>具体例に沿いながら、CAD の基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とします。 CAD システムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業です。具体的に住宅や事務所等の建築について 2 次元 CAD による平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待されます。</p>	<p>教員 2 名により 2 クラスに分かれて同様の授業を実施しています。必修科目のため受講人数は 45 名で、コロナ感染拡大防止のため、遠隔授業希望者が数名いましたが、履修生は積極的に取り組んでくれました。 当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に、課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法を取りました。学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い、素早く解消できたと考えます。 毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確な CAD 技術や知識の向上に寄与できました。</p>	<p>授業評価 4.291 (4.4、4.0、4.3、4.3、4.5) 回収率 73.3% 科目 GPA2.47 (F 以外 2.47) 2020 年度の 4.20 と比較すれば、全体の科目 GPA は高かったです。授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えます。 本年度はコロナ感染拡大を避けるため、SA を用いませんでした。来年度は SA を活用したいと考えます。</p>
<p>A211035 卒業研究 I</p>	<p>授業の中にディスカッションを行うことを通して、意見を相手に伝えられるようになることと、自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目標とします。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業です。テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待されます。</p>	<p>履修者数 6 名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であったことに加え、履修生は積極的に取り組んでくれました。 履修生により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えました。 また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけました。</p>	<p>授業評価 5.00 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 16.7% 科目 GPA2.17 (F 以外 2.17) 実際の成績に比例はしてませんが、成績評価以上に、授業評価が高いです。授業評価回収率が 16.7%程度で、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できないです。研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫を行いたいです。</p>
<p>GA21117 建築設計論</p>	<p>諸理論、事例、実務の実際等についての知識を踏まえ、具体的な計画・設計の指針をいかに導出・適用すればよいか判断する力、つまり計画・設計における主体的、行動的、実践的な探求力、分析力、思考力を育てることを目指します。 建築造形行為の中核となる建築設計の様々な課題と理論を最新の動向・成果の提示を通じて概括し、空間を具体的に計画・設計するための方法の検討を行います。空間的魅力の条件、集客の手法などを含め各種の理論、実務の実際と評価等が主たる関心であり、文献講読や事例の検討も行いながら、21 世紀の建築設計論のあり方を展望し、建築家の社会的役割と責任など、建築、都市、社会の関係に関わる諸問題についても論究します。</p>	<p>履修者数 1 名でした。空間行動よりみた建築設計を考える講義・演習としました。定期試験レポートは学習した内容から 2 つのテーマを選択し、調査報告するもの及び建築作品について考える内容としました。テーマ設定から調査方法、報告について指導を行いました。</p>	<p>授業評価 4.80 (5.0、4.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 100% 科目 GPA4.0 (F 以外 4.0) 実際の成績に評価は比例はしていると考えます。レポートのまとめ方・進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫を行いたいです。</p>

<p>A201001 建築概論</p>	<p>建築学の入門編として、歴史や構造、法規や設備など今後学修する授業の基礎的知識を知ることが目的としている。</p>	<p>教員2名に担当回を分かれて実施する授業で、建築と法規、建築と設備や、建築とインテリアなどに関する授業を行なった。視覚的にわかりやすい資料を用意し、身近な例を取り上げて実施した。また、より理解と興味を深めるために、毎授業に調べ学習を取り入れた。</p>	<p>授業評価 4.4(4.5、4.3、4.4、4.4、4.5) 回収率94.3% 科目 GPA3.88 (F以外3.88) 建築の専門教育の全体が把握できる科目であるため、視覚的にかつ身近な事例を通して、興味を持って学習してもらえようように今後も行いたい。</p>
<p>A201005 建築計画 I</p>	<p>建築計画のために必要な視覚的感覚や、身体と人間行動について理解することができる。建築の計画の方法を理解することができる。用途別による建築計画を理解することができる。</p>	<p>同時期に行われている建築概論からの流れも配慮し、初学生にも興味を持ってわかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に調べ学習を取り入れ、授業で学んだ用途の建築事例についてより理解を深めてもらうようにした。また、授業時間内には、授業内容確認のための確認演習問題を行い、学習の定着をはかった。</p>	<p>授業評価 4.5(4.6、4.3、4.3、4.5、4.6) 回収率80.2% 科目 GPA3.00 (F以外3.00) 昨年度の反省を踏まえ、調べ学習や確認演習問題が提出することを目的としないように。都度、学習の目的と意義を都度伝えた。シラバスに示されている達成目標の達成についての評価が低かったため、次年度は達成目標が達成したと認識されるように資料の充実や、授業進行方向を再検討する。</p>
<p>A201006 インテリアデザイン I</p>	<p>住空間の機能、素材や色彩、光、設備、寸法、デザインスタイルなど、住宅設計やインテリアデザイン、インテリアコーディネートに求められる基礎知識を身につけ、簡単な住宅のプランニングができるようにする。また、「生活」と「もの」、「人」と「空間」の関係についての基礎を学び、住空間の機能、デザインスタイル、色彩、基本寸法などの住空間におけるインテリアデザインを理解することを本講義の目的とする。</p>	<p>同時に開講されている建築設計製図 I の住宅設計を意識し、住宅設計をする上でヒントとなる住宅の機能やインテリア空間内での心理効果、動作空間などの基礎的情報の提供をするものとした。さらに、後期に実施されるインテリアデザイン II につながることも意識し行なった。また、本年度より、資格試験取得を視野に入れた授業内容に変更したことで、資格取得に興味を持つ学生が増えた。</p>	<p>授業評価 4.4(4.5、4.2、4.3、4.5、4.4) 回収率76.5% 科目 GPA2.76 (F以外2.76) 昨年度の改善点として、いつでも資料を確認できるようにし、授業の内容を再度学習しやすいものとした。資格取得に向けた意欲的な学生を意識したが、興味のない学生もいるため、必須であることを鑑みて授業内容を基礎的なものにする。</p>
<p>A211017 インテリア設計演習 I</p>	<p>インテリア設計の基本的知識と表現技術として、「家族」「住まい」の各関係と基本構成要素、基本的条件、エレメントの学修を通して、コンセプトワークから計画・設計・コーディネートボードまでできることを授業の達成目標とします。</p>	<p>まず、家族や住まうことについての基礎知識を学び、そして、建築ストック増加の社会問題を知ってもらう。その上で、内部空間の空間計画や、演出方法などを事例を通して学修し、それらを踏まえた上で価値のある居住空間の提案をしてもらった。プレゼンテーション技術も習得しつつ、コンセプトボード、各種図面、マテリアルボード、コーディネートボードを制作した。インテリアエレメントの選定も実際に販売されているメーカー商品をカタログから選定することで、より実践的に学び、就職活動時のポートフォリオとしても活用できるものを意識させた。</p>	<p>授業評価 4.5(4.7、4.1、4.3、4.7、4.5) 回収率61.3% 科目 GPA1.45 (F以外1.45) 履修者数全員が異なる提案をし、また、それぞれの技術も異なるため、個別に対応した。大学施設改修の提案を増やしたことで、シラバスとは異なる内容になってしまった。しかし、授業内容・課題は、達成目標に即したものであると評価してくれた学生もいたため、身近な空間を提案する課題を例年行えるようにシラバスの再検討をする。</p>

<p>A211038 卒業研究 I</p>	<p>ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。</p>	<p>卒業研究 I においては、高等教育の総合成果として、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身につけられるように対話を重ねおこなった。大学最後の課題になるため、学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネジメントやタスクマネジメントが自主的にできるよう誘導した。 学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。</p>	<p>授業評価 4.8 (5.0、4.4、4.8、5.0、5.0) 回収率 62.5% 科目 GPA3.13 (F 以外 3.13) 16 週と限られた回数での実施になるため、時にはこちらから先回りして指導してしまうこともあるため、学生自ら動き、考えられるように見守ることもしていきたい。しかし、それぞれのペースも把握し、個別に対応するようにしたい。</p>
<p>GA21110 建築学ゼミナール A</p>	<p>授業時間内で、研究の目的や方法、手順などディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。</p>	<p>修士研究であることを意識して、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身につけられるように対話を重ねおこなった。 学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネジメントやタスクマネジメントが自主的にできるよう誘導した。 修士論文完成に向けて、全体の構成や達成目標を学生に検討させ、適宜アドバイスを加え行った。</p>	<p>授業評価— 回収率 0.00% 科目 GPA4.00 (F 以外 4.00) 学生が興味を持ったことをより深く、広く知り、まとめられるように指導した。初めての調査であったが、調査項目の抽出やアンケート調査用紙の作成、調査実施など多くの課題をこなすことが出来た。 来年度修士論文完成に向けて、確実に進められるよう指導をする。</p>
<p>GA21125 建築学特別研究 C</p>	<p>授業時間内で、研究の目的や方法、手順などディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。</p>	<p>修士研究であることを意識して、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身につけられるように対話を重ねおこなった。 学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネジメントやタスクマネジメントが自主的にできるよう誘導した。 学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。</p>	<p>授業評価— 回収率 0.00% 科目 GPA3.00 (F 以外 3.00) 留学生である場合、ゼミとは別に日本語能力を向上してもらおう課題を提示し、研究成果をあげるように誘導する必要があると考える。</p>
<p>A211012 建築計画 II</p>	<p>商業施設・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、モデルの構築と商業施設計画への応用が出来るまでを達成目標とします。</p>	<p>さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。 また、定期的に授業で使用した教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすいようにした。 図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.0(3.9、4.0、3.9、4.0、4.0) 回収率 74.2% カリキュラム・ポリシーに基づいて建築計画での専門性をより高めることを目標とした。 毎週の UNIPA 配信に加えて、遠隔授業だったため ZOOM で授業を行ったりと試行錯誤したが、今後も建築を計画する前には、その用途の過去作品を分析し体系化して把握したうえでアイデアを出すことの重要性を伝えたい。</p>

<p>A211025 インテリア空間演出論</p>	<p>人の生活がより自由で豊かになるための空間デザインを着想するための諸課題が理解できる。 また、それを実現するための比較検討や表現の方法が理解できる。「インテリア」という概念は、そこに含まれる内部空間の総体を指し、内部空間は自然光や影や床・壁・天井を構成する素材や家具や照明器具や生活でおかれるいろいろな小物や窓から見える風景など、様々な構成要素から成り立っています。事例を挙げてそれらの関係を1つ1つ見ていくことでインテリア空間の構成を深く理解していきます。 また、インテリアに関わる資格についての関連事項も取り入れ講義します。</p>	<p>さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。 また、定期的に授業で使用した教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすいようにした。 コロナ火禍で登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.6(4.5、4.5、4.6、4.5、4.6) 回収率32% 社会に認められ、多くの人に受け入れられるインテリアデザインの設計提案に際しては、相手にわかりやすい、効果的なイメージ表現が求められます。本講義ではインテリアデザインを具現化する能力をもった職業人育成のため、実践的な設計手法を理解することができる。</p>
<p>A211003 基礎製図 I</p>	<p>目標 木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。 教育効果 建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を理解・習得することが目的です。</p>	<p>大学入学時点で作図経験を持っている学生たち14人のグループの指導に当たった。他の1年生よりも予備知識や作図経験があることから、経験者用の独自課題を作成し、コンセプト図・平面図・断面図・立面図・模型の提出を必須とした。 通常は2年生から行う作業内容だが、1年生の時点でほとんどの学生が遂行できた。他の1年生の設計技術が今後は上がってくるが、差を詰められないよう努力しいってもらいたく思う。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.7、4.5、4.5、4.7、4.5) 回収率80.7% 科目 GPA3.07 近年はPCで図面を描く「CAD作図」する学生が増えており、実務でも手書きで描いている人はおらずPCで作図することしか無く、立体図すらPC作業だ。一方で建築士の実技試験は未だに手描きのままのため、資格を考えると手描きも指導せざるを得ない。PC作図指導に移行したいができないジレンマがある。 資格試験の様子を見ながら、当面は両方を指導するしかなく、ならばPCのメリット(コピーペースト・BIM化)と手描きのメリット(定規不使用の線を使ったスケッチなど)を融合したプレゼンテーションを追求していきたい。</p>
<p>A211014 建築設計演習 I</p>	<p>目標 建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。 教育効果 「建築」・「空間」・「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。</p>	<p>教員4名により4グループに分かれての対面授業。 1コマが60分授業だったため、通常より30分少なく1日2コマで60分少なかったため、いつもの2/3の対面授業時間しか取れず、質を維持するのに苦労した。 (1)担当グループ全体に指導すること、(2)個々に指導すること、は行っていたが、その中間である小団体ごとに指導する内容も取り入れて、より効率的な指導時間にしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.3 (4.5、4.1、4.4、4.5、4.3) 回収率81.1% 科目 GPA2.52 CAD室(2号館4階、3号館3階)でPCで図面を描く学生と、製図室(4号館1,2階)で手書きで作図をする学生に分かれるため、どちらにも見に行く必要があり、作図法がPC・手描きと多様化しそれぞれの教室が階が違うだけでなく棟自体が違うため、どちらも見回る必要があり、個人指導の時間を取るのに苦労している。 全員を手描きかPCかにそろえることも検討する必要があるかもしれない。</p>

A211041 卒業研究 I	<p>達成目標</p> <p>①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p> <p>②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。</p> <p>③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。</p> <p>また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>前期の卒業研究 I では、後期では卒業設計を選択したい学生にも能力向上を考えて全員に卒業論文を選択してもらった。</p> <p>課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。</p> <p>決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。</p>	<p>授業評価 5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0)</p> <p>回収率 14.3%</p> <p>各過程をチェックし進行具合を把握するために登校は一つの起点として重要と考えられる。</p> <p>また、達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A211019 建築生産	<p>建築生産、住宅産業などについての基礎知識を理解することができる。</p> <p>建築生産および管理にかかわる社会的環境と産業構造、歴史、関係業界と職能、生産プロセス、管理の領域と内容、ファシリティマネジメント (FM) などについて理解することができる。</p> <p>講義で養った知識を建築の建築計画や建築生産に取り入れられるようにすることができる。</p>	<p>短縮授業に対応するために、教科書に完全準拠しながら授業を進めた。建築生産は既習の科目知識を前提とする内容が多々あるものの、どうも以前学習した内容があまり定着していないようで、おさらいパートを追加しないと理解が不十分となるものと懸念される。</p>	<p>授業評価 4.5 (4.7、4.3、4.5、4.6、4.5)</p> <p>回収率 56.5%</p> <p>科目 GPA1.93 (F 以外 2.48)</p> <p>90 分授業に復すのにあわせて、冒頭 30 分を既習内容のおさらいにあてるよう授業資料を充実させる。</p>
A211018 エクステリアデザイン	<p>建築 (主に住宅建築) のエクステリアデザインに関する専門用語を理解することができる。</p> <p>エクステリアデザインがどのようになされているか理解することができる。</p> <p>外構計画のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。</p>	<p>教科書に完全準拠しつつ、補足のパワーポイント、教科書に基づくワークを毎週実施した。こうした授業構成は学生にとっても取り組みやすく、また「勉強している感」を得られやすいようである。ただ、それは本来予習・復習でまかなえるものであろうことを思うと、さらに上の学習へと誘うことが求められる。</p> <p>また、エクステリア計画に感ずる基本知識だけでなく、実際にプランニングできるような展開もさらに進めていく必要がある。</p>	<p>授業評価 4.5 (4.6、4.4、4.5、4.6、4.6)</p> <p>回収率 52.8%</p> <p>科目 GPA1.93 (F 以外 2.48)</p> <p>具体的なプランニングへとつながるような課題内容をさらに模索する。</p>
A211026 建築経済学	<p>建築と経済の関係を理解するための基礎知識が理解できる。</p>	<p>講義内容自体は、卒業後にかかわることとなる建築業界と密接な関係を持つ内容ゆえに、興味をもたせる余地が大いになるものの、実際はそれには至っていない。</p> <p>関心をもって受講する学生と、不足単位取得のために履修している学生にはっきりと二極化しているのも悩ましい。</p>	<p>授業評価 4.8 (5.0、4.5、4.8、5.0、4.9)</p> <p>回収率 28.6%</p> <p>科目 GPA1.93 (F 以外 2.48)</p> <p>不足単位を取得するために受講した学生にとっても興味関心を持つことができるような仕掛けを試行していく。</p>
A211036 卒業研究 I	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。</p> <p>また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>少人数に対するきめ細かな指導が可能である反面で、個別対応ゆえに、他の学生が受けている指導を、自分自身の課題・問題として敷衍することができずに時間を持て余してしまっている。</p>	<p>授業評価 4.7 (5.0、4.5、4.5、5.0、4.5)</p> <p>回収率 50.0%</p> <p>科目 GPA1.93 (F 以外 2.48)</p> <p>他の学生の研究内容を自分事として受けることができるような下地づくりと授業構成を模索していく。</p>

<p>A211027 住宅産業論</p>	<p>住宅産業が成立した経緯や要因を説明することができること。 また、これからの住宅産業について、課題や可能性を自らの意見として述べるができること。</p>	<p>本学科学生のうち半数ほどは住宅関連企業に就職することとなるため、住宅産業に関する授業内容は、とても有益なものになりうるものと期待される。しかしながら、その魅力が十分に伝えられているには至っていない。むしろ、卒業生や他大学の学生・教員などに受けがよいのが悩ましい。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.5、4.4、4.7、4.6、4.9) 回収率 34.4% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 今後は授業内容をさらにブラッシュアップするとともに、魅力を伝えるための工夫をほどこしていく。</p>
<p>A211009 建築 CAD I</p>	<p>建築 CAD ソフトの種類や用途、専門用語を理解することができる。 建築 CAD ソフトによる 2 次元作図ができる。 建築 CAD ソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できる。</p>	<p>必修科目のため、学科 2 年生を 2 クラスに分けて実施している。理解度と集中力に大きな差が生じるため、授業運営はある程度作業になれたら各自進めてもらい、教員は机間巡視によりサポートする方式をとっている。 別クラスは担当教員が異なるため、両クラスの課題内容は共通化できても、指導やチェック、評価などについてはどうしても差が生じてしまう。 その他の事情も勘案し、次年度以降は、同一教員で 2 クラスを担当する予定である。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.5、4.2、4.4、4.3、4.5) 回収率 81.6% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 本年度で担当からはずれるため、検討・申し送り事項をまとめ伝達する。</p>